

浸種の水温は12℃以上、15℃未満で！ 催芽は、あせらず芽切れを確認！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

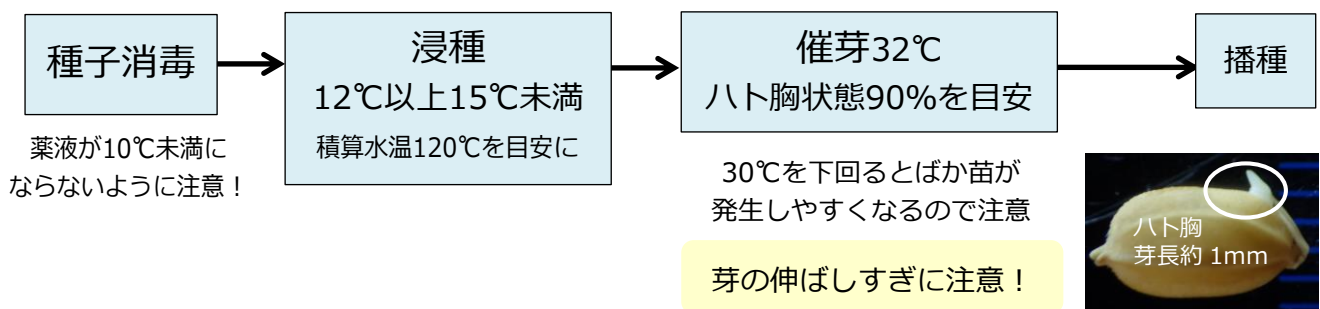
出芽を揃えて良質な苗を育て、浸種・催芽から基本技術を再確認し、高品質良食味米生産をスタートしましょう！

◎浸種

浸種の水温を低くせず、12℃以上から15℃未満で行います。浸種を始める時の水溫が5℃くらいまで低いと催芽時の芽切れが不揃いになり、発芽勢も劣ります。適正な水溫で浸種し、積算水溫は品種毎の目安を参考にして、十分吸水するように管理します。

◎催芽

イネは登熟期間が高温になると種子の休眠が深くなります。浸種が十分であっても、**本年は催芽を始めてから芽切れするまでの時間が、例年よりも長いという状況がみられています。**芽切れしないまま播種をしてしまうと、出芽揃いが悪くなり、その後の健苗育成が難しくなります。**必ず、しっかり芽切れしていることを確認してから、播種作業に入りましょう。**



特に、休眠が深くなりやすいとされている「コシヒカリ」「ひとめぼれ」や酒造好適米は注意が必要です。

◎播種

芽切れが不十分なままの播種とならないよう、もう一度作業計画を確認しましょう。

STOP!農作業事故 農作業事故防止運動春季強化期間(4/10~6/10)